

2005年(平成17年)5月3日 火曜日

# 「下総玩具」生みの親 松本さん遺作600点

柏高島屋で展示、9日まで

101歳で昨年末に亡くなる直前まで創作に取り組んでいた、下総玩具の生みの親、松本節太郎さんの遺作展が、柏市の柏高島屋で開かれている。

下総玩具は、粘土を手でひねる「手びねり」という手法で作られた焼き

物や張り子の人形で、十二支や七福神、動物、写真などを題材にしている。表情もそれぞれユニークで、色も鮮やか。東京出身の松本さんは

戦後、疎開先の柏で人形作りを始めた。地元の郷土玩具がなかったことから、自ら「下総玩具」と名付け、コツコツと活動。次第に名前が知られ



るようになり、97年には、柏駅西口ダブルデックス壁面に、松本さんの作った小さなお面約85点がはめ込まれた。

昨年11月27日に永眠したが、9月ごろまで創作を続けていたという。友人で遺作展を企画した柏市のギャラリー経営者、鈴木昇さん(56)は「101歳になっても、創作意欲は衰えず、生涯に作った作品の種類は数千種に及ぶ」と話す。

遺作展の会場には、初日から101歳の作品まで約600点が並ぶ。中には、ムンクの「叫び」を模した素焼きの作品など、これまでに公表されていなかった作風の人形もある。

9日まで、入場無料。